

広報

にしあいつ

No. 657

7

2013

(平成25年)



咲きそろう「おとめゆり」

P2～5 -特集- 農業に挑む

P6～7 新緑の奥川路 駆け抜ける

～第38回奥川健康ワラツク大会～

P8～9 国保税の税率改正

P10 6月町議会定例会報告

農業に挑む

特集

町の基幹産業である農業。担い手不足、高齢化や離農、耕作放棄地の増加など課題が山積する。こうした中でも、農業への転身を決意する人たちがいる。町では、新規就農者の支援を目的に、営農研修費や住宅賃貸料等、また独立時の経営安定への補助を行う「新規就農者あんしんサポート事業」を平成23年度から実施している。今月号では、新規就農者を支え、そして担い手を増やす手掛かりを探るため、新たに農業に挑む人たちと、営農研修を受け入れる農家に話を聞いた。

interview 1

食、人間の生命を支える「農業」 就農しキュウリ栽培に挑む



ほし 星 けいすけ 敬介さん [上野尻]

入

間の生命の源である「食」を支える農業者が、10年後には半数以下になってしまうという後継者不足への危機感、また、前職の着物業とつながりの深い農業に、今、取り組まなければ間に合わなくなるのではないか。日本の基盤を成す農業をもっと大切にしなければならぬ」と星さんは農業を始めた思いを語る。

会津若松市出身の星さんは、父の実家がある上野尻に移住し平成23年に農業を始めた。

就農にあたり町経由で県喜多方農業普及所から助言を受け、栽培の難易度、技術・経済面からキュウリを選んだ。そして、栽培、経営を学ぶため、戸中の新澤富一さんの下で2年間指導を受けた。

星さんは今年から新澤さんの

天

もとを離れ、一人でキュウリ「極光」の栽培に挑む。

変なのは、すべて一人で行い、判断し、自己責任

であること。肉体的疲労はもちろん、家族を養っていくという精神的プレッシャーもある。また初期投資に予想以上の経費がかさんだ。順調に収穫でき、家族みんなで無事にシーズンを終えられるか、さまざま不安はあるが、やりがいがある」と星さんは心境を語る。

指

導者の新澤さんに対して星さんは、農業全般にわたり基礎から丁寧に指導を受け、それが自身の経営の指針、農業の型の基本になっていると感謝する。

7月中旬ごろの収穫開始に向け、星さんは一つ一つ確かめながら作業にあたる。

自

然と人情が豊かな西会津町で自然の恵みをいただき生活できることは幸せであり、また、近隣の皆さん、町民の皆さんにはいつも声を掛けてもらい、とても励みになる」と星さんは多くの人たちとのつながりを大事にする。

「ゼロから始めたばかりですが、将来は農業を通じて「食」のみならず、繊維や織物である「衣」、山林の木材を使った「住」のすべてを町から産出して町の人たちの生活が潤うことを目指し、町の発展に少しでも貢献できるように頑張りますので温かく見守っていただければ」と夢を膨らませる。





あらさわ 新澤 とみいち 富一さん [戸中]

一人でも若い人、 農業で暮らす人を増やし そして町の農業、農地を守る

interview 2

平

成23年から2年間、新規就農者である星敬介さんの研修を引き受けた新澤さんは現在、水稲、キュウリなどを栽培・経営する。

研修の受け入れを決めたのは、一人でも若い人、農業で生きる人を増やしたいという思いからだ。

新澤さんは、今でも農業を始めたときの不安がずっと続いていると言う。

「農業への新規参入が少ないのは、きのこ生産のような経営モデルが無いからで、通年の経営効率を考えた作物の選定が課題である。さらに失敗しても影響が少ない、経費がかからないやり方がポイントになる」と新澤さんは分析する。

このため、いろいろなものを見たり、話を聞いたりして自ら

学び、さまざまな作物の栽培を試み、さらに、連作障害を避ける栽培方法などの研究、試験栽培にも取り組む。

星さんは、キュウリの収穫、管理はもとより、こうした試験栽培などについても学ぶことができた。

自

立した農家が増え、楽しみながら農業ができるようになれば、若い人たちの就農が増えるはずだ」と新澤さんは語る。

今年から一人でのキュウリ栽培をスタートした星さんを心配し、新澤さんと星さんのやりとりは続く。

農

業について新澤さんは、「食糧を生産する農業は、人が生きる上で欠かすことのできないもの、本質だと思う。町の農業を何とかしなければならぬ。たくさんある農地も守り生かしていく必要がある」と言う。

農地については「過去の歴史を振り返れば、先祖は田畑を耕し、幾多の困難を乗り越え命をつないできた。その田畑は、はじめからあった訳ではなく、開墾、開拓し、増やしてきたもので、そういった田畑がいかに尊いかと考える。だから今ある田畑をできる限り管理し、残していきたい」と語る。



遊休農地が増えることよって用水路が維持管理されなくなり、災害の発生につながることも指摘する。

本

年4月から新澤さんは、西会津支部長を務める。

「農業は実践しながらでなければ技術習得は難しい。本気で学びたいという人がいれば今後、農業で自立できるように、この町に合う栽培品目を模索し結果を出したい。農業を通して町の人を呼び込むことも実現できたら」と新澤さんは抱負を語る。



さかした しょうじろう
阪下 昭二郎さん [松尾]

50年、100年先を 見据えた 農業、地域づくりの 一翼を担いたい

町

で農業を学ぶ阪下さんは大阪府東大阪市の出身。今まで国内や海外のさまざまな都市を仕事で回り、環境やエネルギー、食の問題にかかわる農業に関心をもち、5年前、新規就農者を支援する「新規就農人フェア」に参加した。そこで喜多方市山都町の農業者と出会い、4年間の準備を経て山都町に移住し、農業を始めた。

その後、より本腰を入れ就農する場所をどこにするか悩んでいたところ、今年に入り、NPOの集会で菅本の渡部定衛さんと出会った。

渡部さんと話を交わすうちに、この人の下でまず学び西会津町で頑張ろうと決意し、今年3月末、松尾に移り住んだ。

阪

下さんは現在、渡部さんの指導の下、水稲をはじめ、キュウリ、トマト、ブロッコリー、枝豆、インゲン、カボチャ、ニンジン、メロン、ウドと、実にさまざまな品目の栽培技術習得に励み、育苗からハウス・ほ場整備、施肥、植え付け、栽培管理、収穫作業のほぼすべてにかかわる。

農

「農業学校とは異なり、実際に市場出荷する商品を扱う農家の働き手として、その責任、真剣さが違う」と阪下さんは言う。農業について阪下さんは、

「天候に左右され、消費者の志向、経済情勢の影響を受け、また、品種改良や栽培技術など極めて多くの情報入手が基本になる。その上で機敏に判断し行動するには経験のみならず、関連業者とのつながり、栽培方法や販売先を常に見直す姿勢が重要で、渡部さんとの交流から多方面に通じた経営者である必要性を痛感し、学んでいる」と語る。加えて「農業者はその地に住み、集落に溶け込み、認められることが基本。そのためにも地域とのコミュニケーションを大切にしたい」と話す。

さらに、農業には収益を上げる経済的価値のほか、歴史・文化的役割、そして環境的役割があり、西会津町にはその素晴ら

しい資源と可能性がある」と阪下さんは強調する。

半面、諸活動において横のコミュニティや関連業者を越えた外部の人たちとの交流が不足していると言う。

阪下さんは、3つのつながりをキーポイントに進めたいと語る。

ま ず一つは『人』のつながり。つまり今あるコミュニティを大切にすること。都市部にはコミュニティや、ゆっくり流れる時間、空間に安堵感を覚える人が多い。

二つ目は『時』のつながり。自然とのやりとりから生まれた生活習慣や文化、催事、郷土料理、また生命のつながりは豊かな自然を復元し、後世につながると思います。

最後に『自らの思考と行動』のつながり。過去の自分にさかのぼると、この町で農業をする選択には間違いなくつながりがあると感じます。だからこそ、ここでの生活、仕事、取り組みを心から大切にしたい」と阪下さんは3つのつながりについて述べる。

さらに、「短期的な成果を求めるのではなく、50年、100年先を見据えた農業、町を考えていきたい」と阪下さんは思いを語る。



わたなべ 渡部 さん [萱本]
 さだえ 定衛 さん

多岐にわたる農業経営 だからこそ 若い後継者を**育**てて いかなければならない

interview 4

渡

部定衛さんが就農したのは昭和44年。以来、葉タバコやインゲンなどの生産を経営して、現在はハウスでの大規模なキュウリ栽培を主体に、トウモロコシや白菜などのほか実に多品目の野菜栽培を行っている。さらに冬季は、ハウスを使ってウドを栽培し、年間を通して農業経営を行う。

渡部さんは、妻、長女、三女と家族経営協定を結び、役割と責任を分担した家族ぐるみの農業を実践する。

同時に、健康な土づくりをはじめ、発酵肥料の使用、耐病性品種の導入などにより減農薬、減化学肥料を推進し、環境への配慮、安全・安心な農作物の生産に努めるエコファーマーでもある。

マ

ニユアルに沿って栽培すれば、それなりのものでできるが、普通に作物を作るだけでは、これからはやっていけない。同じ大根でも辛いもの、甘いもの、トマトも酸味の強いもの、甘いものと、さまざまな品種がある。その土地に合ったものを自分で見つけ、市場にどう応え安定的な経営ができるか。加えて、近年の異常気象に耐えられる栽培方法も確立していかねければならない」と多岐にわたる農業経営の難しさ、このため、優れた人材が必要であることを強調する。

こ

うしたことから担い手農家への技術指導・支援のほか、若い担い手の雇用、新規就農者の研修といった後継者の育成に力を注ぐ。

渡部さんは、これまで可能な範囲で何十人もの就農希望者を受け入れ、野菜中心の栽培指導を行ってきた。今は、松尾の阪下昭二郎さんらを受け入れ指導にあたる。

「農業は、技術だけではなく経験によるところが大きく、短期間での技術習得は難しい。だから就農には覚悟が必要になる」と渡部さんは話す。

町認定農業者連絡会長などを歴任し、地域農業のリーダーと

農

して活躍する渡部さん夫妻は、昨年9月、福島県農業賞の荣誉に輝いた。業について渡部さんは、その魅力は自分でつくり出すものだという。

「産直などは二の次で、まず交流によって、都市部の人たちが西会津町を訪れ、それがやがて行き来するように発展し、そして、西会津産の野菜を食べてみよう、あるいは買ってみようといったようになる都市との深い交流、いわば都市との融合から、一人でも多くの雇用を生み出すことができれば」と渡部さんは抱負を語る。



第 38回奥川健康マラソン大会が、6月16日、旧奥川小学校をメイン会場に開催され、全18部門に856人のランナーが参加し、新緑の奥川路で力走を繰り広げました。

前日に雨が降ったためコンディションが心配されましたが、会場には朝早くから続々と選手が集まり、雲間からのぞく青空が選手の皆さんを歓迎しました。

今大会は、奥川ゆかりの北京オリンピックマラソン日本代表の佐藤敦之さんと、女子800m日本記録保持者の佐藤美保さん夫妻をゲストランナーに迎え開催され、選手の皆さんはアスリートと共に走る喜びを満喫し、また、沿道からの声援や爽やかな風の後押しされゴールを目指しました。



新緑の奥川路駆け抜ける

第38回奥川健康マラソン大会



奥川健康マラソン フォトギャラリー

2013

～全国から大勢のランナー



佐藤敦之さん、美保さん 夫妻がゲストランナー

開会式ではゲストランナーの二人が紹介され、佐藤敦之さんは、中学、高校生時代に奥川路で練習した自身の思い出を語り、また、走る楽しさを選手に伝えました。

親子の部に出場した伊藤智美さん、夕藍さん（左から）が元気よく完走を誓いました。

親子で宣誓



お父さんと走り思い出つくる

大会当日は父の日で、出場した子どもたちは、お父さんと手をつないでスタート。一緒に走り奥川での思い出を心に刻みました。



町内選手入賞者

[10位まで・敬称略]

親子 2km
5位
外島大輔・拓
(下野尻)



小学3・4年男子
2km 4位
横山翔大
(芝草)



小学3・4年女子
2km 7位
外島 央
(下野尻)



小学3・4年女子
2km 9位
齋藤心透
(上野尻)



小学5・6年男子
2km 7位
伊藤亜久里
(牧)



中学女子 3km
10位
大田沙莉奈
(縄沢)



中学男子 5km
9位
佐藤茂哉
(芝草)



一般女子40歳未満
5km 7位
三留由香
(西平)



40代男子 5km
10位
高津友一
(端村)



40代男子 10km
4位
雅楽川隼人
(宝川)



40代男子 10km
8位
桑原巨治
(西林東)



選手を気遣う美保さん

親子の部や女子の部に参加した佐藤美保さん(写真:右端)は、選手を気遣い、笑顔で声を掛けながら奥川路を走っていました。



高校生・一般男子の部 優勝は菅野孝さん

高校生・一般男子(40歳未満)の部10kmでは菅野孝さん(NOKメダル)が32分48秒で優勝し、大会長の伊藤町長から賞状が贈られました。



敦之さんに負けない

子どもたちも佐藤敦之さんに負けまいと本気で頑張り完走しました。

ゴール手前では、沿道から「もう少し、頑張れ」と声援が送られ、選手は苦しいながらも笑顔で応えゴールを目指しました。

もう少し、笑顔でゴール目指す



奥川支所前の給水所でも、地元奥川の皆さんが拍手しながら選手に声援を送りました。

給水所でも選手にエール





4,000万円を
減税財源に

国保税の 税率改正

国民健康保険とは

国民健康保険（国保）は、加入する皆さんが病気やけがをしたとき、誰もが少ない負担で安心して医療を受けられるようにした制度です。

健康な方でも、病気やけがはいつ起きるか分かりません。国保は、もしもの場合に備え、加入者同士が互いに助け合っていく「相互扶助」の精神で成り立っています。

国保税の決め方

国保は、町が一般会計とは別に特別会計で運営しています。

国保税は、①国保加入者の医療費の状況によって決める「医療費分」、②国全体の後期高齢者医療制度の医療費の状況によって決める「後期高齢者支援金分」、③国全体の介護サービス費の状況で決める「介護保険分」の3種類で算定します。

国保税の総額は、その年に見込まれる医療費などの支出総額から、国・県から交付される国庫支出金・県支出金と、町の一般会計からの繰入金などを差し引いた額になります。

したがって、皆さんの医療費の動向が国保税の増減に、密接に関係しています。

町独自の税負担の軽減対策

町では、国保税の負担軽減を図るため、次の2点を実施し、総額4,000万円を減税財源に充てました。

①第5期国保財政3カ年計画による負担軽減

長期的な国保税の負担軽減を図ることを目的に、国保財政3カ年計画に基づき、保険給付費支払準備基金から2,000万円を減税財源に充てました。

②繰越金の充当による負担軽減

平成24年度決算による繰越金から2,000万円を減税財源にしました。

※上記の①②の2つの負担軽減策により、本来負担すべき額より

1人当たり 17,175円

1世帯当たり 29,657円の軽減になります。

【通常の場合】

歳出	医療費等	その他
----	------	-----

歳入	国保税必要額	国・県支出金等	その他
----	--------	---------	-----

4,000万円の
軽減

【町の場合】

歳入	基金 繰越金	国保税必要額	国・県支出金等	その他
----	-----------	--------	---------	-----

平成25年度の税率・税額

()内は前年度

区分	説明	医療分	後期高齢者支援金分	介護保険分
所得割	国保加入者の前年の所得に応じて計算	5.49% (5.54%)	2.20% (2.01%)	2.13% (1.86%)
資産割	国保加入者の固定資産税額に応じて計算	22.60% (25.18%)	9.20% (8.80%)	12.30% (11.10%)
均等割	国保加入者1人当たりの負担額	21,500円 (21,400円)	8,700円 (7,700円)	11,000円 (9,900円)
平等割	1世帯当たりの負担額	17,100円 (18,400円)	7,000円 (6,800円)	6,000円 (5,700円)

税率改正による国保税の試算

[単位:円、表の下段の()は前年度税額]

◆世帯主の給与収入360万円、妻のパート収入115万円、子ども2人の場合

	所得	固定資産税額
世帯主 48歳	2,340,000	30,000
妻 45歳	500,000	0
子 18歳	0	0
子 15歳	0	0

	医療分	後期高齢者支援金分	介護保険分
所得割	119,682 (120,772)	47,960 (43,818)	46,434 (40,548)
資産割	6,780 (7,554)	2,760 (2,640)	3,690 (3,330)
均等割	86,000 (85,600)	34,800 (30,800)	22,000 (19,800)
平等割	17,100 (18,400)	7,000 (6,800)	6,000 (5,700)
計	229,562 (232,326)	92,520 (84,058)	78,124 (69,378)

●医療分・後期高齢者支援金分・介護保険分の合計は400,100円(前年度385,600円)で前年度より14,500円の増額となります。

◆世帯主、妻ともに年金収入はあるが収入が120万円以下の場合(7割軽減該当)

	所得	固定資産税額
世帯主 70歳	0	40,000
妻 68歳	0	0

	医療分	後期高齢者支援金分	介護保険分
所得割	0 (0)	0 (0)	0 (0)
資産割	9,040 (10,072)	3,680 (3,520)	0 (0)
均等割	12,900 (12,840)	5,220 (4,620)	0 (0)
平等割	5,130 (5,520)	2,100 (2,040)	0 (0)
計	27,070 (28,432)	11,000 (10,180)	0 (0)

●医療分・後期高齢者支援金分・介護保険分の合計は38,000円(前年度38,500円)で前年度より500円の減額となります。

国保を取り巻く状況

国保加入者の医療費の動向は、全体では減少傾向にあるものの、加入者が減っているため、1人当たりの医療費は微増となっています。

また、ここ数年、景気が低迷していましたが、農業所得の増などにより所得状況がある程度改善しており、軽減の対象者数はわずかに減っている状況です。このような状況の中、町独自の軽減対策を実施することで、国保加入者の負担軽減を図りました。

しかし、国全体で負担を分かち合う「後期高齢者支援金分」

および「介護保険分」については、年々負担額が増加している状況です。

今年度の税率(上表のとおり)

①医療分

軽減対策により、今年度の国保税の必要額は1億440万円となり、昨年度より40万円減ったこと、また所得の回復により、税率については引き下げることができました。

②後期高齢者支援金分

国から示された負担額が増加したため、今年度の必要額が、昨年度より510万円増え、4千690万円になったため、税

率は引き上げとなりました。

③介護保険分

40歳から64歳の国保加入者は、介護保険料を国保税として納めることになっています。

今年度の必要額は、昨年度より270万円増え、2千600万円となり、税率は引き上げとなりました。

【全体では】

医療分では税率を引き下げることができましたが、後期高齢者支援金分、介護保険分の税率が引き上げになります。この結果、全体では税率が上がりました。

このため今年度の国保税は、所得など世帯の状況が変わらな

い場合、基本的に増額になります。左表下段の介護保険分の負担がない世帯の試算のように減額になる場合もあります。

健康がいちばん!

国保税は、医療費の状況によって必要になる額が変わるため、その年の状況に応じて税額を計算します。つまり、国保税を下げるには、健康になることが一番です。「健康がいちばん推進事業」にみんなで取り組みましょう。

【問い合わせ先】

町民税務課 ☎45-22212
健康福祉課 ☎45-22214

6月町議会 定例会報告

6月町議会定例会が6月7日から12日までの6日間を会期に開かれ、条例の制定・一部改正、平成25年度の補正予算など議案15件、報告4件について審議され、いずれも原案のとおり可決されました。

町政の主要事項 報告から

名誉町民・新田正夫氏 からの寄付金について

新田氏は、これまで町に対し、多大な寄付、寄贈を行ってこられました。特に新田氏は、児童生徒の健全育成に並々ならぬ思いを持ち、町では、これまで自身の旅行体験記や、図書購入資金の寄付をいただいできました。本年4月には、西会津中学校町民図書館を充実するための資金として新田氏から新たに2千



万円の寄付があり、本年4月24日に逝去された新田氏の遺志のもと基金を設置し、児童生徒を中心とした教育の振興に活用することとしました。

J A全農が保管する 大豆の処分

J A全農が保管する大豆の、あいづダストセンターでの処分が5月22日に行われ、町、柳津町、県会津地方振興局の立会いのもと、J Aそうまの大豆約10トンが焼却処分されました。焼却前の大豆の放射能濃度は42、139ベクレル、焼却後の焼却灰の最高濃度は458ベクレルで、国が示す埋め立て処分の基準8千ベクレルを下回りました。今後とも地域住民の安全・安心を十分に確保できるよう関係団体と連携しながら調査や監視を行っていきます。

定住促進助成事業

若者の一層の定住を促進するため、今年度から新たに定住促進助成事業を導入しました。この事業には、定住住宅整備費補助と住宅団地購入費補助の2つの補助制度があり、このうち定住住宅整備費補助は、町内に住む45歳以下の若者や、町外からの移住者が町内に住宅を新築、または、住宅を購入する場などに補助金を交付する制度です。6月1日現在、新築2件、増改築1件の補助金の交付決定を行ったところです。

空き家バンク事業

空き家バンク事業は、増加傾向にある空き家を利用し、定住促進や二地域居住など、定住と交流人口の拡大を図るため、財団法人地域活性化センターの助成で実施する事業です。具体的には、空き家情報のホームページを作成し、物件の情報提供するほか、町の定住支援、子育て支援施策などの情報も合わせて掲載し、U・Iターの促進を図るものです。

地域おこし 協力隊員の配置

地域おこし協力隊員は、過疎・高齢化が進む地域で、地域外

の人材を積極的に誘致し、地域の活性化につなげるため配置するものです。

町では、この国の制度を活用し、4月中旬から隊員の募集を開始したところ1名の応募があり、採用試験の結果、このたび配置することとしました。

採用期間は本年6月1日から来年3月31日までで、活動の内容は、定住促進と交流人口の拡大に向けた調査・検討、町の地域活性化事業の支援などです。

横浜市鶴見区との交流

町では、昨年4月に鶴見区と友好交流協定を締結し、その後、具体的な交流内容の協議を行ってきました。

本年2月には、グリーンツアーズム協議会主催の「雪国ツアー」に区職員や区民が参加したほか、5月には鶴見区商店街連合会の皆さんがロータスインを訪れるなど交流が深まりました。

さらに、この夏には、鶴見区の子どもサマーキャンプが西会津町で実施されることになり、このほか、区内の民間ケーブルテレビとの交流も検討しています。今後とも多くの皆さんに西会津町に来てもらえるよう町の魅力を積極的にPRし、町の活性化につなげていく考えです。

可決された議案

- 町新田正夫教育振興基金条例の制定―名誉町民・新田正夫氏からの寄付金2千万円を原資とする教育振興基金を設置するため制定
- 町税条例の一部改正―国の平成25年度税制改正に伴う個人住民税、固定資産税などの条項改正
- 町国民健康保険条例の一部改正―地方税法の改正および国保税率の変更に伴う一部改正
- 町簡易水道設置等に関する条例の一部改正―給水区域に甲石地区を加える改正
- 平成25年度町一般会計補正予算(第2次)―明神橋耐震補強工事費の減額、小規模介護施設整備に対する補助金の増額、野沢保育所駐車場整備費の追加などで3千213万2千円を減額
- 平成25年度町国民健康保険特別会計補正予算(第1次)―国保の保険者負担金の増額
- 財産の取得―除雪ドーザー6台、ロータリー除雪車1台、給食センター食器・食缶洗浄機の購入



長谷川四郎さん「瑞宝単光章」受章

長谷川四郎さん（出戸）が春の叙勲で瑞宝単光章を受章し、6月17日、伝達式が町役場で行われました。

式では、伊藤町長立会いのもと、石井浩県会津地方振興局長が長谷川さんに勲記と勲章を伝達しました。

長谷川さんは昭和35年、消防団に入団以来、消防人として36年の長きにわたり町民の皆さんの安全・安心確保に尽力し、平成2年からは6年間、第5分団長を務め、団員の消防技術向上をはじめ組織強化などに貢献しました。

伝達にあたって伊藤町長は、長谷川さんの功績に感謝し、「今後も健康に留意され、指導をお願いしたい」とあいさつしました。

佐藤百太郎さん国土交通大臣表彰受賞

佐藤百太郎さん（滝坂）が土砂災害防止功労・国土交通大臣表彰を受賞し、6月18日、町役場で丸山準阿賀野川河川事務所長が佐藤さんに表彰状を伝達しました。

佐藤さんは、長年にわたり滝坂地すべり災害を記録し、地域の皆さんや防災関係者に災害の歴史や教訓を伝え、また、用地取得の調整など地すべり対策事業の推進に尽力した功績が認められ、このたび表彰を受賞しました。伝達にあたり丸山所長は「佐藤さんの功績に恥じぬよう着実な対策事業推進を誓います」と述べ、立ち会った伊藤町長は「地すべり対策へのこれまでの功績に深く感謝します」とあいさつしました。



和久井正己さんに福島民報社が感謝状

福島民報社から感謝状を受けた和久井正己さん（10町内）が、6月7日、その報告のためスミ子夫人とともに町役場を訪れました。

和久井さんは、昭和34年から福島民報社第1号の特別通信員として、平成16年からは県内初のふるさと記者として半世紀余りにわたり地域の身近な話題を発信し続け、本年5月31日で記者を退任しました。和久井さんは、「54年間、西会津町をはじめ、会津の話題を楽しく取材でき、また多くの人に出会えました。支えてもらった人たちに感謝したい」と思い出を交え謝意を述べました。

宮城教育大学が集落活性化へ中間報告

宮城教育大学の集落活性化事業報告会が5月25日、交流物産館よりっせで開かれ、宮城教育大学の小金澤孝昭教授と学生らが平成22年から上谷、富士地区で取り組んできた集落の活性化に向けた調査の中間報告を行いました。

教授らは、上谷地区では資源調査とお宝マップ作成、郷土料理展覧会とレシピ作り、先進地視察などを、富士地区では農業経営状況や集落の親戚ネットワーク調査、四季マップ作成などを行い、調査で明らかになった課題などを説明しました。報告会には両地区のほか、町民の皆さんも参加し、一層の集落活性化について共に考えました。



知って安心「熱中症」予防と対処法

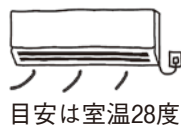
熱中症対策で暑い夏を乗り切りましょう

熱中症とは？

高温多湿な環境の下、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、また、体温調節機能がうまく働かなくなると体内に熱がたまり、筋肉痛や大量の発汗、さらに吐き気や、体がだるくなる症状が現れ、熱中症が重症化すると意識障害などを引き起こします。

予防のポイント

- ①暑さを避ける
 - 炎天下での外出を控える。
 - 外出時には日傘や帽子を着用し、日陰を選んで歩く。
 - 冷房や扇風機を利用する。ただし、冷房は強すぎると外気温との差が大きくなり、体に負担がかかります。



重症度	症状	対応
I 度	目まい、立ちくらみ、筋肉のこむら返り、大量の発汗	⇒すぐ、その場で水分補給
II 度	頭痛・気分不快・吐き気・嘔吐、倦怠感・虚脱感	⇒急いで病院へ
III 度	意識障害・けいれん、真っすぐ歩けない、高体温	⇒すぐに救急車で病院へ

もし熱中症になってしまったら、

●意識が「有る」場合

- 日陰など涼しい場所に移動する
- 自分で水分摂取できる場合、スポーツドリンクなどで水分と塩分を補給する



●意識が「無い」場合

- 119番に通報
- 日陰など涼しい場所に移動し衣服を脱がせる
- 顔を横に向け、足を高くして寝かせる
- 首、脇の下、足の付け根などを氷で冷やす



汗をかいたら

簡単手作りドリンク

【材料（作りやすい分量）】

- ◎水 1リットル
- ◎砂糖 大さじ4
- ◎塩 小さじ2分の1
- ◎レモン汁 大さじ2

【作り方】

砂糖と塩が完全に溶けるまで混ぜるだけで、溶けたら完成です。



②涼しい服装
通気性、吸汗、速乾性のある衣類を選びましょう。

③小まめに水分補給
熱中症を予防するため、小まめに水や麦茶などの水分を補給しましょう。

たくさん汗をかいたときは塩分も一緒に取りましょう。汗をかく前の塩分補給は不要です。

また、アルコールや、紅茶・コーヒーなどに含まれるカフェインは水分を体外に排泄する作用があるので控えましょう。



- ④適度に汗をかく習慣を
発汗機能が正常に働くよう、日ごろから運動や入浴で汗をかく習慣をつけておきましょう。
- ⑤バランスのよい食事と十分な睡眠
1日3食、バランスのよい食事に心掛け、十分な睡眠をとりましょう。

皆さんへのお願い

一人暮らしの高齢者や、高齢者だけの世帯には地域ぐるみで熱中症予防の呼び掛けをお願いします。

熱中症は、7月～8月に多く発症しています。暑い日は、特に注意が必要です。熱中症対策を心掛け、暑い夏を乗り切りましょう。

【問い合わせ先】

健康支援係 ☎45-4532

すごいな！

むし歯のない子

5月28日、3歳児2名を対象に健康診査を行った結果、むし歯のない子は1名でした。



いぶき
津川 依吹 ちゃん
(さゆりが丘)



▲新郷地区 ソフトボール



▲新郷地区 ソフトバレーボール



◀ 尾野本地区 バレーボール

青空の下、熱戦！ 新郷・尾野本地区球技大会

新郷地区球技大会

第35回新郷地区球技大会を6月2日に旧新郷小学校グラウンドで開催しました。男子はソフトボール、女子はソフトバレーボールの種目で、参加チームによる総当たり戦で試合が行われ、会場は熱気にあふれ、手に汗握る試合となりました。この球技大会の開催により、日ごろの運動不足解消と地域内での親睦、世代間の交流が図られました。

【結果】▼ソフトボール（男子）

- 優勝 笹川 B
- 第2位 豊洲 A
- 第3位 笹川 A
- ▼ソフトバレーボール（女子）
- 優勝 笹川 B
- 第2位 笹川 A



▲新郷地区ソフトボールで優勝した笹川Bチーム

尾野本地区バレーボール大会

同じく6月2日、さゆり公園多目的広場を会場に第41回尾野本地区町民バレーボール大会を開催しました。9自治区17チームが出場し、和やかな中にも選手の皆さんは自治区の期待を背に試合に臨みました。

この大会は、古くはマンモスバレーボール大会といわれ、会場の多目的広場の中央を横断するように、テニスコート側から向かいのセンターポール側の間に番線を張り、そこにネットを張って6つのコートを設置し、試合をします。

現在は、田植え後の「さなぶり」時季の恒例行事として定着し、尾野本地区では、毎年度、最初の体育行事になっています。選手の皆さんは、和気あいあいとコートに入りますが、いったん試合が始まると、真剣な表情になり、一点の攻防に一喜一憂する姿が見られました。

今回は天候にも恵まれ、この大会を通じて健康の維持増進と、地区の連帯感を一層高める一日となりました。

【結果】▼一般の部

- 優勝 森野
- 第2位 萱本
- ▼婦人の部
- 優勝 西林東
- 第2位 上小島
- ▼青年の部
- 優勝 松尾
- 第2位 上小島
- ▼総合優勝 森野



町民バトンタッチ

あらうみ ともゆき
荒海 智之さん [小網木]

いのうえ しん
 井上 慎さん (6月号から) メッセージ
 これからもよろしく！一緒に野球しような。

あなたの趣味は？
 ドライブ

熱中していることは？
 愛車のドレスアップ

最近感動したことは？
 サッカー日本代表のワールド
 ドカップ出場決定

自分を一言で表現するとしたら？
 マイペース

特技は？
 野球

あなたのモットーは？
 一期一会

これからやってみたいこと
 は？
 イワナなどの溪流釣り

次の方を紹介してください
 M・Sさん (新町)

とっておきの物は？
 『落合博満さんのサイン色紙』
 「伯父さんにもらい大切に
 しています」



町民 ギャラリー

冬芽俳句会

またたびの眩しくゆれて葉うらかな
 ラブレターのもどき便りや業平忌
 万緑や地球円ごと抱きしめて
 厳しさを若さにつなぐ夏の畑
 帰省子に葉がくれ茄子の濃紫

岩原 紀子 (五町内)
 喜多 光子 (九町内)
 鈴木 智子 (さゆりが丘)
 鈴木 はる子 (十町内)
 渡部 淑子 (四町内)

聞いて！ わたしの夢

ここでは西会津中学校の生徒の皆さんに、自分の想い描いている夢や目標などを話していただいています。

今月は、2年・生徒会総監査の高橋晃樹さんです。

わたしの夢——

「僕は将来、エンジニアになりたいと思っています。

その理由は、小学生のころから機械の仕組みを調べるのが好きで、また、多くの人が使ってうれしくなるようなものをつくることができたらと思うからです。

今は、自動車に興味を持っていて、将来は発電の分野に携わってみたいと思っています」



努力していること——

「エンジニアになるには、理数系の教科がとても大切なので、理科や数学、技術を特に頑張って勉強しています」

最後に未来の自分に一言——


「エンジニアになれましたか。とても大変なことが多いと思いますが、仕事頑張ってください」

まちの人口 ～6月1日現在～ (前月比)


人口	7,364人	(± 0人)
男	3,548人	(± 0人)
女	3,816人	(± 0人)
世帯	2,793世帯	(+ 2世帯)

戸籍の窓口 ～5月受付分～ 〈敬称略〉

お誕生おめでとう

武藤 望 ^の 亜 ^あ くん	智一・歩	 2町内
武藤 麗 ^れ 亜 ^あ ちゃん	智一・歩	2町内
清野 樹 ^{じゅ} 菜 ^ま ちゃん	和之・梢	芝草

ご結婚おめでとう

斎藤 光	橋屋	
船橋 春華	上野尻	

お悔やみ申し上げます

渡部 一 (92)	信一	父	1町内
渡部 美恵子 (95)	哲夫	母	3町内
根本 純一郎 (63)	史彦	父	6町内
大槻 精市 (79)	一浩	父	芝草
外島 富子 (93)	拓	祖母	下野尻
遠藤 スミエ (88)	誠喜	母	八重窪
猪俣 三郎 (97)	幸次	父	極入
小椋 壽一 (73)	陽子	夫	弥平四郎

町地域おこし協力隊員 紹介

こぼり はるの
小堀 晴野さん
(東京都出身)



任期:平成25年6月1日～
平成26年3月31日

町では、都市部の人の若い力、行動力、斬新な発想を取り入れ、町の活性化につなげるため、新たに、地域おこし協力隊員を配置しました。隊員の小堀さんは、定住促進や交流人口の拡大に向けた調査・検討のほか、町の地域活性化事業の支援などにあたります。

こちら西会津消防署です

4月の人事異動で新たに着任された西会津消防署の皆さんを紹介します。

西会津消防署長

へんみ あけみ
邊見 明美さん
昭和28年生まれ
喜多方市出身



関係機関と一体となって安全で豊かな地域、災害に強い町づくりにまい進します。

第三当直長

さとう えいし
佐藤 栄司さん
昭和44年生まれ
喜多方市出身



職員の育成、イベント等への協力を通じて、安心して暮らせる町づくりに貢献していきます。

予防危険物第一係

えんどう きよし
遠藤 清志さん
昭和53年生まれ
喜多方市出身



町民の皆さんが安心して暮らせるよう頑張ります。

警防・救急救助係

はせがわ まさる
長谷川 勝さん
昭和52年生まれ
猪苗代町出身



町民の皆さんと共に、救命率向上を目指して頑張ります。

警防・予防危険物係

たが げんき
多賀 元紀さん
昭和63年生まれ
西会津町[10町内]出身



住民の皆さんが安心して暮らせる町になるよう頑張ります。

以下は広告です。内容については、広告主へお問い合わせください。

有料広告を募集しています

紙面に掲載する有料広告を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

- ◆大きさ 1 枠当たり縦4.0cm×横8.5cm
- ◆掲載料 1 枠当たり5,000円/月

【問い合わせ先】

企画情報課・広報広聴係 ☎45-4536

万一に備え、総合防災訓練

町、町消防団をはじめ、女性消防隊、消防支援隊、喜多方警察署、西会津消防署、県消防防災航空センター、会津中央病院、徳沢自治区の皆さんが参加した総合防災訓練が6月2日、徳沢地内で行われました。

訓練は、大雨により土砂災害警戒情報が出された想定の下、災害時の応急対策が円滑・的確にできるよう避難、応急救護、積み土のう、救出、消火など幅広い内容で行われ、万一の備えを万全にしました。

こゆりちゃん
トピックス



今月の表紙



南東北周辺の一部だけに自生し、桃色の甘い香りの花を咲かせる「おとめゆり」。安座地域は全国でも有数の群生地といわれ、階段約150段を登った山の中腹に群生地が広がり、安座の皆さんが保護してきました。6月15、16日には、第1回おとめゆり祭りが現地で開かれ、町内外からの来場者は一面に咲きそろう「おとめゆり」に顔をほころばせていました。